



# 館報 まつかわ

松川町公民館報  
第682号  
令和2年9月15日

町の川 ②④ 天の川（増野）  
空にも川がありました



松川町が舞台の  
映画

# 松川町

## 公開迫る！

10月2日(金)～

センゲキシネマズほか  
長野県先行ロードショー

### 魅力ある

### 作品が完成

松川町が舞台なんて、たいしたことないんじゃない？  
監督も知らないなあ

などと思う方もいらつしゃ  
るかもしれませんが、ですが、  
この映画、本格です。

主演は、若手漫才師“まんじゅう大帝国”竹内一希さん。M-1グランプリ2016では、アマチュアながら3回戦進出。役者としても演技力の高さに定評があり、多数のテレビドラマにも出演しています。

出演者は、田中要次さん、三浦貴大さん、小野真弓さん、山本學さんといったベテ

ラン俳優陣も。

さらに本人役で、島田秀平さんや爆笑問題も出演している、豪華キャストなのです。

ストーリーも、とても心を打つ作品となっています。

試写では冒頭から涙する人もいたとか…。



主演の竹内一希さん（まんじゅう大帝国）

この映画の主人公、<sup>みのる</sup>実は農家を営みながら芸人をしてる「兼業農家お笑い芸人」です。こんな人、松川町に実在していますよね。本誌で今年の1月号で紹介した、松尾寿司さんです。松尾さんも、りんご農家とお笑い芸人の二刀流。「松尾アトム前派出所」という芸名で活躍されています。

(あくまでモデルであり、松尾さんの人となりや家庭事情は映画とは異なります)

## 主人公のモデル



スクリーンの中で  
見慣れた風景の本当の魅力に  
気付かされる



“父さんに笑って欲しい” その想いとは…

## 八木順一郎監督

主人公のモデルである松尾さんが芸人として所属しているのがタイタン(爆笑問題など所属)です。そして、松尾さんのマネージャーをされているのが、この映画の監督である八木順一郎さんなのです。

八木さんは、元々映画制作を夢見て上京(出身は岐阜

松川町に魅せられた八木監督。

実際に撮影し、映画が完成した今の想いは…。

### 【八木順一郎監督コメント】

自信のある作品ができました。とてもうれしく思います。

松川町の方々の協力と、松川町が持つ美しい自然が、ここまでのいい作品にしてくれました。ありがとうございます。

一人でも多くの人たちに見ていただきたいと思いますし、日本、また世界にも発信していきたいです。



県)。日本大学藝術学部映画学科監督コースを卒業しています。そして「芸能界に携わればチャンスがあるかも!」と、タイタンに入社し、所属タレントのマネージャーをされてきました。その後、映画が作れる“ことを買われ、タイタンの芸人のライブ映像やDVD収録用のショートフィルムなど映像制作事業にも携わっています。

## 松川町の 魅力を再発見

松川町に魅せられて制作に至った「実りゆく」。松川町の風景も、作品の魅力の要素になっています。

この映画を見ることで、普段この町に住んでいる私たちも、町の魅力を再発見できる作品だと伺いました。ますます楽しみです!

撮影場所はりんご農園ばかりではなく、商店街や七楯神社、町内のお店など様々です。また、町民エキストラも大勢出演しています。





松川 I.C

フルーツライン

城山

伊那大島駅

# スナックひろこ

新井商店街

# 口々地巡り

天竜川

七槌神社





なまな

# 松川町ふるさと山の会

「オラあ、他人<sup>ひと</sup>に言われて  
やつとるんじゃネえんな。好  
きな山に登るんだもんで道は  
きれいな方がいいら。登りな  
がら草を刈ったり、危ねえよ  
うな石をどかしたり、イロイ  
ロやつとるんだに。そいで頂  
上へ登って見てごらん、そ  
りゃあ素晴らしい景色が見え  
るもんで最高だに。」

ま、一回登ってみな、話し  
だけじゃわからんで」

もう、しばらく前にお聞き  
した地域の古老のお話しです。

今回「なまなち」のコー  
ナーでご紹介する「松川町ふ  
るさと山の会」はこういう気  
持ちをもっている方達のグ  
ループです。前身は「ふるさ  
と登山実行委員会」。

お話しを伺った会長の北原  
正尚さんは、身振り手振りで  
熱く力強くお話ししてくださ  
いました。



2016年発足で現在の会  
員は26名。ふるさとの山を通  
して町民の皆さんに身近な自  
然を再認識してほしい、その  
ために安全に登ってもらえる  
よう整備に力をいれているそ  
うです。

古い案内看板の付け替え、  
登山ポストの設置、小八郎岳  
山頂のあずまや改修、クマザ  
サ刈りなど、必要な整備は会  
員で行なっているそう。

また、山に自生している笠  
ユリなどの高山植物の保護に  
も力を入れておられます。

いつもそこに有って当たり  
前の身近な自然。でも、当た  
り前すぎて、近づくことも詳  
しく知ることもしようとしな  
かった気がします。

町民の皆さんを対象に毎  
年、烏帽子岳登山を開催し、  
地域の山を訪れるきっかけに  
なれば良いと願っているとの  
ことです。

ツツザキ

ヤマジノギク

保護区の現状

7月の豪雨により残念ながら保護  
区が浸水し被害を受けてしまいまし  
た。今後の保護活動につきましては  
関係機関、関係者と協議を行なっ  
ております。今後の方向が決まりまし  
たらお伝えいたします。



俳句

鐘 涼 し

矢沢さち子(東浦)

山門の彫の深さや鐘涼し

ひるが  
旋花の井月の軸風通す

砂礫中こま草群れて風なびく

僧十余人経響き合う大施餓鬼

残暑見舞恩師の筆致衰えず



令和2年度

松川町駅伝大会

「中止」のお知らせ

開催を楽しみにされていた皆様には誠に恐縮ですが、  
事情ご賢察の上、ご了承くださいませようお願いします。





問題  
考える  
みんな  
で  
人権を  
考慮  
仲良  
く

北小学校  
「人権に関する標語」

②

一人でも

勇気があれば

だいじようぶ

松下 結衣

あいさつで

真珠のような

笑顔あり

北村 社登

だいじようぶ

一人じゃないよ

みんないる

新井 凜音

人生は

みんな一つの

宝物

上條 詩子

ありがとう

だれかを変える

魔法の一言

安藤 陸

そのいじめ

一生だれかの

きずになる

北原菜乃陽

友だちは

あなたの心

そのものだ

大淵 隆平

友だちと

いっしょに遊べて

たのしいな

松田 朔弥

松川町今昔

資料館だより

◆第49回◆

「松川町と満州移民」

(その1)

毎年夏になると敗戦の時期に関わって、戦時中の様々な様子について紹介する新聞記事やテレビ・ラジオ番組が集中します。今年は75年ということで、新たな歴史がいろいろ紹介されていました。松川町では、松川高校ボランティア部の活動が大きく紹介されています。

ところで松川町では満州移民との関わりは、どんな様子だったのでしょうか。長野県からの移民者は全国でもかなり多く、その中でも下伊那郡は、最も多くの人々が移民しています。

下の表は下伊那郡の満州移民者をまとめたものです。上片桐は上伊那郡なので入っていません。43市町村のうち人口に対する割合の多い村と少ない村を取り上げてみました。

当時の大島村・生田村ともに割合が少なく、特に大島村は下伊那全体の中で、少ない方から4番目の村です。生田

村も15番目です。そのほか表に挙げた村々は、人口の1割を超え多くの人々が満州へ渡った村です。ではなぜ大島村・生田村は少ないのでしょうか。また多い

大島村・生田村満州移民者数

旧村名	農業開拓移民	報国農場	勤労奉仕隊	義勇軍	総数	村人口(昭10)	村人口比率
大島村	52人	2人		16人	70人	4,762人	1.5%
生田村	71人	4人		14人	89人	2,968人	3.0%
三穂村	38人			10人	48人	2,506人	1.9%
川路村	311人	11人		14人	336人	2,567人	13.1%
千代村	497人	2人		24人	523人	4,786人	10.9%
上久堅村	641人		25人	23人	689人	3,560人	19.4%
泰阜村	764人			21人	785人	5,844人	13.4%
清内路村	342人	1人	1人	25人	369人	1,953人	18.9%

※『下伊那のなかの満洲 別冊』・『長野県満州開拓史 名簿編』より

村はなぜ多いのでしょうか。今まで多くの研究者が、多い村の理由について述べています。しかし大島村のように少ない村について述べている人はほとんどいません。

大島村は、前回の「昭和初期の開墾と果樹栽培の広がり」と関係があると思います。昭和3年から始まった開墾により果樹園が次第に広がり、世界的な恐慌の中で、村・個人ともに苦しい生活や経営が、少しずつ改善されていったためではないかと思えます。満州へ行くのは、自主的な考えで行く人もあったでしょうが、それぞれの家の改善のため、家を出て満州で農業経営を築いていこうとしたことが多いと思います。大島村では全体として改善される経営や生活の中で、村で生活を持続することが可能だったのではないのでしょうか。そのことが移民者の少なさにつながったのだと思います。

大島村は恐慌からの経済更生に村民が一つになって活動し、特別助成村に指定され、多くの村々が視察に訪れています。(つづく)

松川町資料館

伊坪 達郎



## 公民館

## ニュースポーツ体験会



ディスクを投げ射す

中央公民館では、8月6・7日の両日に夏休み期間中の児童保育の小学生を対象にニュースポーツ体験会を開催しました。

両日で合計120人ほどの児童が参加し、ボッチャ・ディスクゲッター・囲碁ボールの3種目に挑戦しました。

今年度は新型コロナウイルスの影響で夏休み期間が短く、学校プールが解放されないほか、夏祭りなどのことも楽しめるイベントが少なくなっています。

中央公民館では「子供たちに何か体験でき、楽しんでもらえる催しを」とこの体験会を企画しました。



(左) 囲碁ボールとパラ五輪種目のボッチャ (右)

6日は北小学校の児童保育に参加する児童を対象に上片桐改善センターで、7日は午前と午後の2回に分けて町民体育館で中央小学校の児童保育児童向けに開催しました。こどもたちは3種目のルールを教わり、早速プレーし夢中になって楽しんでくれていました。

松川町資料館  
企画展の  
おしらせ

資料館では令和2年度第1回企画展「寄贈民具・岩石展」を開催しています。



この企画展では、町内の方から寄贈していただいた什器類、民具類、濃飛流紋岩などの貴重な史料を展示しています。

中央公民館、図書館にお立ち寄りの際はぜひご覧ください。

展示期間は9月末まで開催しています。

(水曜日は休館です)

担当主事の大澤さんは、「今年度は雨天に阻まれ中止となることも多かったが、小中学校の夏休み開始が遅れたことを受け、急遽であるがあいさつ運動を実施しまし

ていた。

もうすぐ夏休みということもあり、子どもたちの足取りも軽快だ。社会部員のあいさつに、子どもたちはより大きな声であいさつを返していた。

す  
ぽつとマスク着用で  
街頭あいさつ運動

中央公民館社会部



気にあいさつを返してくれました。大人の皆さん、こどもとすれ違う際、うつむいてしまつてはいませんか？大人から挨拶することがとても大事だと思います。

町のみんなが自然に挨拶できる、明るい町になつて欲しいですね。」と語った。





地域を知る講座

絶滅危惧種

『野鳥アカモズの生態』

7月4日第1回地域を知る講座『野鳥アカモズの生態』を開催いたしました。講師に北海道大学大学院在籍でアカモズの生態研究の為5月から松川町にいられて観察をされている『青木大輔』さんを招き講演頂きました。

「アカモズはその数が200〜400羽と非常に少なく絶滅危惧種に分類されている野鳥です。繁殖の為に東南アジアから日本に訪れます。長野県の果樹園地帯や北海道で確認をされており、その一部が[ ]や松川町の果樹園地帯の環境を利用して子育てを今年も行っています。昨年渡って来たアカモズが今年も[ ]や[ ]で何組か確認が出来たそうです。又アカモズ特有の生態や、カッコーとの生存競争や普通のモズとの違い」など多くの話を聞くことができました。繁殖の為にこの松川の地を選び飛来して子育てをし東南アジアへ渡り冬を過ごします。過酷な旅を



するアカモズに心が熱くなる思いでした。2年前このアカモズが松川の果樹園地帯で繁殖をしている新聞記事が載ってからマナーの悪いマニアが訪れ、果樹園に入ったり、沿線道路に本格的なカメラで撮影するようになってしまいました。報道については注意を払わなくてはいいけないことを考えさせられました。

講演後に青木さんと同様に生態研究をされている3人の仲間を交えての交流の場では彼らから「今後もしリンゴ栽培とアカモズ保護の両立をはか

ています。」とおっしゃっていました。また来年も彼らとアカモズでつながりを持てることを楽しみにアカモズ談議でも盛り上がった交流の場を閉じました。

いつまでもアカモズが松川の地を繁殖の場として飛来してくれる自然豊かな環境を町民の皆さんと意識して守っていったらと思います。

いつまでもアカモズが松川の地を繁殖の場として飛来してくる自然豊かな環境を町民の皆さんと意識して守っていったらと思います。



草

新型コロナウイルス感染症の影響で自粛期間が続いていますね。旅行にも行けず、気軽に友達とも会えず、そろそろ自粛も限界がきています。

先日、私は前々から気になっていた、フォレストアドベンチャーへ初めて行つて来ました。思っていた以上に本格的なアスレチックで、バランス感覚も必要ですし、全身を使って走まないといけないため自粛期間にゴロゴロしていた体には少々つらいものがありました。運動不足解消にもなつてとてもよかったです。

飲食店や旅館もテイクアウトやキャンペーンなど、新たな取り組みを行っていますよね。私も商品券を使って松川のお店でご飯を食べたり、割引を利用して屋神温泉に宿泊したり、ちゃっかり地元を満喫しています。今年の夏はお祭りもなくて例年に比べて物足りない夏でしたが、地元の良いところを発見でき、良い機会になりました。

（原 美保子）

公民館報

「まつかわ」

第 682 号

令和2年9月15日

発行所 松川町公民館

責任者 山 崎 隆

編集人 公民館編集部

Tel 36-2622

e-mail: c.kouminkan@matsukawa-town.jp

飯田市上郷黒田121

印刷所 龍共印刷株式会社

再生紙を使用しています。